

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270400229		
法人名	社会福祉法人 すみれ会		
事業所名	すみれの里		
所在地	黒石市馬場尻南61-5		
自己評価作成日	平成25年7月20日	評価結果市町村受理日	平成25年11月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成25年9月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・温泉をひいており、いつでも入浴出来る。また、庭には足湯もあり、いつでも利用出来る。</li> <li>・毎月いろいろな場所へバス遠足に出掛け、利用者の気分転換を図っている。</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者がその人らしく過ごせるように、俳句を趣味にしている方や習字を得意とする方に発表の場を提供したり、作品展への出品を支援して、利用者が豊かな気持ちで生活出来るように取り組んでいる。</p> <p>また、職員は利用者と一緒に食事を摂り、できる限り利用者とお話をする機会を設け、その際に日頃の希望等を聞きながら、ドライブや買い物等の外出を計画する等の支援に努めている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの役割を理解しており、理念に反映させている。	地域との交流を図り、利用者が家庭的な雰囲気の中で、自由に暮らせるように支援することを掲げた、ホーム独自の理念を作成している。管理者は、職員が理念を反映させたサービス提供がなされているか確認し、全職員が理念を理解して共有出来るように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者は地域の運動会、夏祭り、文化祭に参加している。また、施設の行事(観音祭、敬老会)等にも参加していただき、地域との交流を図っている。	地域の公民館に毎月ホーム便りを掲示してもらい、ホーム行事への参加を働きかけている他、夏祭りや地域の清掃活動等にも参加している。また、近隣小学校の運動会の見学や利用者の作品等の出品の他、敷地内にある観音様へ地域住民が参拝に訪れる等、日頃から交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者のプライバシーに配慮した上で、実習生を受け入れており、見学者や実習生に対し、認知症状のある方への支援方法を説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催しており、報告や情報交換を行っている他、自己及び外部評価の結果を報告している。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、市役所職員や民生委員、利用者や家族等が参加している。会議では自己評価・外部評価の結果及び、改善項目に対する目標等を報告している他、ホームに関する些細な内容についても報告し、理解を得られるように取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域密着サービス事業者連絡会に参加し、行政機関と協力関係を築いている。また、評価結果を提出し、連携を図りながら、質の向上に取り組んでいる。	運営推進会議に市役所職員が毎回出席している他、地域密着サービス事業者連絡会に参加し、ホームの取り組み等を積極的に伝えながら、協力関係を築いている。また、自己評価・外部評価の結果及び目標達成計画を提出し、ホームの実態等を理解していただくように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	園内研修を通じて、身体拘束の内容や弊害について理解しており、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関するマニュアル作成し、職員は園内研修等を通して拘束の内容や弊害について理解しており、身体拘束は絶対に行わないという方針で日々のケアに取り組んでいる。また、職員が常に見守りを行いながら、利用者の外出傾向の察知に努めており、万が一の無断外出時に備え、法人全体で地域住民に協力を働きかけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	園内研修を通じて、虐待についての理解を深めており、虐待を行わないケアを心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	園内研修で日常生活自立支援事業や成年後見制度について、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書を用いて説明を行い、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を用意したり、入居者との会話の中で意見や要望を聞きだしている。また、月1回、入居者の日常の様子や健康状態等を手紙で家族に報告している。	意見箱の設置やホーム内外の苦情相談窓口の明示の他、日頃から観察を密に行い、意見を出しやすい雰囲気づくりに努めている。月1回は家族に利用者の様子を手紙で知らせ、面会時は意見や要望を出していただくように働きかけている。また、苦情に至らない案件についても、改善出来ることはミーティング等で話し合い、職員の見解も聞きながら、今後のホーム運営に活かせるように取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見解や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや毎月の運営会議・ケース会議において、職員と話し合いの場を設けている。	ミーティングや会議等、日頃から職員の見解を聞く機会を設けている。管理者は職員から出された意見を会議録にまとめて上司に報告し、改善の依頼等を行いながら、職員の見解が反映されるように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に健康診断や腰痛検査を実施している。また、業務の多忙さ、人手不足等、労働環境についても改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や園内研修を通じて、職員の質の確保、向上に向けて育成を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の地域密着サービス事業者連絡会を通じて、勉強会を行ったりして交流を図っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接調査時、本人のニーズ等を聞き出し、ケアプランに反映させている。また、安心出来る雰囲気づくりを心掛け、信頼関係を築くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接調査時、家族の希望等を聞き出し、家族の思いを受容して、信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には、本人や家族のニーズに対して、何が必要かを見極め、柔軟に対応し、実行に移している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において、入居者がそれぞれの役割活動を持ち、生き生きとした生活を送っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを受け止め、一緒に入居者を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所へドライブへ出掛けたり、電話や手紙での連絡を取り持つ等、支援を行っている。	これまでの生活の中で馴染みのある美容院や洋服店等の利用を継続出来るように支援している。また、俳句の趣味のある利用者があり、投稿を継続出来るように支援したり、電話のやり取りを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	役割活動や色々な作業を通して、入居者同士が共に協力し、支え合っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談や支援に応じる姿勢を示している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族からの希望や意向等の情報収集を行い、把握するように努めている。	日々のケアを通して、利用者のしぐさ、言動等に細心の注意を払い、出来る限り利用者と話をする機会を設け、思いや意向、希望等を把握するように努めている。また、面会時等、家族からも情報を収集し、ミーティングや会議等で職員間でも話し合い、相手の視点に立って意向等を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等について、本人や家族から情報収集を行い、把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の心身状態や生活リズムを把握しており、一人ひとりの能力に合った活動や作業を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族から意向を聞いた上で、職員間で十分に話し合い、介護計画を作成している。	介護計画作成時は、可能な限り利用者の意見を聞き、家族や関係者の意向等も取り入れながら、一人ひとりに合った計画となるように努めている。また、ケアチェック表の他、独自の様式も活用し、利用者の状態を介護計画に反映出来るように取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りやケース記録、看護記録等により情報を共有し、モニタリングに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況や要望に応じて、今までの暮らしが継続出来るように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	併設施設と合わせ、防災訓練時に消防署の協力を仰いだり、警察による交通安全指導等の他、地域の小学校と交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回、協力医療機関の精神科医に訪問していただいている他、入居者の希望により、かかりつけの医療機関への受診も支援している。	入居時にこれまでの受療状況やかかりつけ医を把握しており、通院方法や受診結果の伝達方法等についても納得が得られている。また、認知症の専門医による週1回の往診がある他、希望に応じて、これまでの医療機関へ継続して受診出来るように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、日常の健康管理を行っている。介護職員も入居者の身体状況に変化が見られた時は報告し、連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際、面会時や電話等で入院状況を聞き出し、家族を含め、退院に向けて情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、介護及び看取り介護の対応について説明し、同意を得ている。重度化が予想される場合は、家族と話し合い、併設の特別養護老人ホームに入所していただいている。	看取り指針を作成し、重度化や終末期の対応について、ホームの方針を明確にしている。また、利用者や家族の意向を踏まえ、重度化した場合には医療機関の意見も聞いた上で、母体施設に入所していただき、連携していく方針であり、家族等の納得を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成しており、応急手当や初期対応については、看護職員が報告を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間を想定した避難訓練を毎月行っている。また、総合防災訓練の際は、消防署や地域の方の協力を得ている。	毎月1回、職員と利用者が一緒に、ホーム独自の避難訓練を行っている他、年2回、夜間想定訓練も実施している。消火器等の設備点検は業者により定期的に行っている他、法人を通して災害時に協力を働きかけている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した言葉掛けやさり気ない介助を行っている。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、常に年長者を敬う接し方を心掛けている。排泄時も他の利用者に気づかれないように居室に誘導しており、細心の注意を払い、支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事や活動への参加、決め事を常に入居者と話し合い、自己決定を促す場面づくりを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースに合わせ、自由な生活を送っていただけるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や行事に参加する際は、入居者と一緒に衣服を選んだり、化粧を行い、おしゃれが出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の他、入居者が買い物に行った際に、好きな物を買って食べることが出来るように支援している。また、食事準備や片付けと一緒にやっている。	嗜好調査を行い、利用者の希望や好み、苦手な物に配慮している。利用者は調理の手伝いとして食材を刻んだり、盛り付けや食器洗い等、毎日担当を決めて行っている他、体調等も考慮の上、無理に勧めず、希望を聞きながら一緒に取り組んでいる。職員は利用者と一緒に食事をとり、会話を楽しみながら、楽しい食事時間となるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がバランスの良い食事を献立に取り入れている。入居者の食事や水分摂取を把握しており、個々の状態に応じて食べやすいように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の力量に応じて、一緒に口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録で排泄パターンを把握し、トイレ誘導により排泄の自立を支援している。	利用者一人ひとりの排泄記録があり、パターンに応じて誘導を行い、紙パンツから布パンツへ、尿とりパットを取り外す等、自立に向けた支援に取り組んでいる。また、尿意や便意の確認等、誘導時の声掛けはさりげなく行い、羞恥心には十分に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や適度な運動により自然排便を促しているが、便秘時には個々に合わせた量と頻度で下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴は毎日午後実施しており、入居者の体調の変化や希望に応じ、柔軟に対応している。	利用者一人ひとりの入浴習慣や好みを把握しており、毎日午後に入浴を実施している。また、毎日の入浴や遅い時間の入浴等、出来る限り利用者の希望に沿えるように、柔軟性を持って支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、適度な運動や活動を取り入れ、安眠に繋がるように支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の種類、用量を看護記録に記載し、周知している。薬の変更時は状態観察に努め、記録に残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や趣味を把握しており、趣味活動や役割活動に活かしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日、園庭散歩と観音様への参詣を行っている。その他、買い物やドライブで気分転換を図ったり、行事に参加している。また、家族の協力を得て、外出する機会を設ける等、支援を行っている。	敷地内にある観音様へのお参りの他、庭園や菜園等をゆったりと散歩出来るように支援しており、日常的に外出する機会を設けている。また、利用者の行きたい場所を把握し、買い物の機会にドライブ等を計画して外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は事務室で預かっており、必要な場合は本人へ渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	プライバシーに配慮し、電話を掛けたり、手紙を出す等の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を保ち、共用空間は不快な音、光が入らないように注意している。玄関や廊下には生け花を飾り、季節感を取り入れている。	共用のホールには家庭的な食卓や肘掛けの付いた椅子、ゆったりとしたソファを準備しており、利用者が思い思いに寛ぐことが出来るようになっている。玄関やホールには季節感のあるちぎり絵や生花を飾っている他、不快な光が入らないように日射しを調節したり、温・湿度計を確認しながら適切な空調となるように取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で自由に過ごしたり、リビングで入居者同士が思い思いに過ごしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使用している馴染みの物を持ってきてもらうように家族に働きかけ、協力を得ている。	入居前から馴染みの家具や仏壇、位牌等を持ち込み、居心地の良い個性的な居室づくりに取り組んでいる。また、持ち込みの少ない利用者については、入居後の写真等を飾り、殺風景にならないように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者が混乱するような表示等はせず、入居者の身体状況の変化に応じて、その都度環境改善を行っている。		